



日本高野連発第17-0093号
平成30年2月21日

都道府県高等学校野球連盟 会長殿
都道府県高等学校野球連盟
理事長、専務理事、代表理事殿
審判委員各位
加盟校 学校長殿
同 野球部 責任教師殿

公益財団法人 日本高等学校野球連盟



会長 八田 英 二



「平成30年度高校野球用具の使用制限」について

今般、「平成30年度高校野球用具の使用制限」が決定しましたのでお知らせいたします。

昨年からの大きな変更はございませんが、使用に際し猶予期間内のものが2点（サングラスと捕手<審判含む>用マスク）ありますのでご留意下さい。

また、最近のウェア関連の傾向として柄物（カモフラージュ柄等）が流行していますが、グラウンド内で着用するもの（特にグラウンドコートやVジャンなど）は、大会において使用出来ないものもありますので都道府県連盟または日本高野連にそのデザイン等についてあらかじめご相談下さい。（具体例：別紙を参照下さい）

以上、高校野球用具の使用制限の主旨を伝達し、周知徹底をお図りいただけますようよろしくお願い申し上げます。

～高校野球用具の使用制限主旨～

1) 必要以上に派手な用具を使用せず高校生らしさを失わないこと

高校生という年代は多感な時期でもあり、ともすれば派手で贅沢な用具を使用してプレイがしたいという気持ちを持つのも想像に難しくありません。

しかし、教育の一環としての高校野球であるという大前提を考えれば、高校生の時代に必要以上にそのような用具を使用することは避けるべきであり、用具はシンプルであることが学生野球のあるべき姿です。

2) 商標に対する規制

高校野球の注目度は年々増しており、特に報道各社は様々なメディアで取り上げます。したがって、その影響力は多大であります。

そのような背景があり、野球規則に抵触しない範囲でメーカー各社は用具に商標やマークなどに工夫を凝らし、商品を販売することも考えられます。

知らぬ間に、選手が広告・宣伝の元となり、利用される傾向があります。

メーカー各社にも、本使用制限の主旨について理解を求めています。最も大切なことは我々高校野球に関わる全ての者が商業主義とは一線を画す姿勢を持つことが肝要です。

以上

《 柄物具体例 》

